

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書	
令和 6 年 6 月 26 日	
茨城県知事 大井川 和彦 殿	
提出者 住 所 茨城県北茨城市華川町白堀 1 8 7 番地 4 号 氏 名 J X 金属株式会社 磯 工場長 山 越 康 電話番号 0 2 9 3 - 4 3 - 5	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	J X 金属株式会社 磯原工場
事業場の所在地	茨城県北茨城市華川町白堀 1 8 7 番地 4 号
計画期間	令和 6 年 4 月 から 令和 7 年 3 月
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	非鉄金属製造業
②事業の規模	資本金 7 5 0 億円
③従業員数	1 , 2 2 5 名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	① 焼却処分 ② 中和処理 ③ 熱分解 ④ 破碎処分 ⑤ 焙焼処分 ⑥ 溶融処分

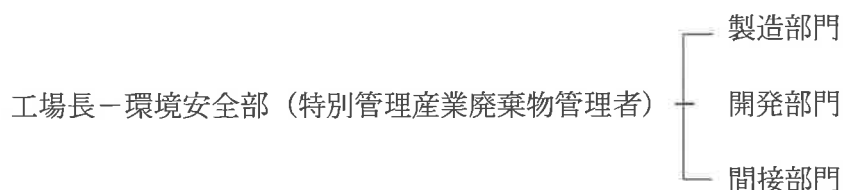


57

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	排出量	352.1 t	544.3 t
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ
	排出量	40.6 t	61.6 t
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	廃プラスチック類
	排出量	56.6 t	181.8 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	木くず
	排出量	9.4 t	79.3 t
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	がれき類
	排出量	0.5 t	2.3 t
	産業廃棄物の種類	管理型混合廃棄物	
	排出量	2.9 t	
	(これまでに実施した取組) ・一部埋立処分だった廃プラスチック類を埋立処分にならぬよう、最終処分業者の変更により、再資源化されるようになった。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥
	排出量	335 t	517 t
	産業廃棄物の種類	廃油	廃アルカリ
	排出量	39 t	58 t
	産業廃棄物の種類	ガラスコンクリート・陶磁器くず	廃プラスチック類
	排出量	53 t	172 t
	産業廃棄物の種類	金属くず	木くず
	排出量	9 t	75 t
	産業廃棄物の種類	水銀使用製品	がれき類
	排出量	0.4 t	2 t
	(今後実施する予定の取組) ・生産工程の見直し改善等により製品率を向上させることによって発生原単位の削減に努める。		

産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特別管理産業廃棄物も含め産業廃棄物全般について分別管理の徹底を図る為、産業廃棄物処理管理細則と呼ばれる規定を工場内で定め、廃棄物の定義、保管場所、処理方法等の概要等を明らかにしている。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状の取り組みについて、継続実施する。		
自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量		
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量		
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量		
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量		
	(これまでに実施した取組)		

(第4面)

	②計画	【目標】					
		産業廃棄物の種類					
		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量					
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量					
		(今後実施する予定の取組)					
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項							
	①現状	【前年度（ 年度）実績】					
		産業廃棄物の種類					
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量					
		(これまでに実施した取組)					
	②計画	【目標】					
		産業廃棄物の種類					
		自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量					
		(今後実施する予定の取組)					
産業廃棄物の処理の委託に関する事項							
	① 現状	【前年度（ 令和5年度）実績】					
		産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥	廃油	廃アルカリ	ガラスコンクリ陶磁器
		全 処 理 委 託 量	352.1 t	543.3 t	40.6 t	61.6 t	56.6 t t
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	352.1 t	536 t	40.6 t	61.6 t	22.3 t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量		7.3 t			34.3 t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量					

(第5面)

		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量						
		産業廃棄物の種類	廃プラ	金属くず	木くず	水銀使用 製品	がれき類	管理型混 合廃棄物
		全 処 理 委 託 量	181.8 t	9.4 t	79.3 t	0.5 t	2.3 t	2.9 t
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	124.5 t	1.9 t	79.3 t	0.5 t	2.3 t	
		再生利用業者への 処 理 委 託 量	57.3 t	7.5 t				2.9 t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量						
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量						
		(これまでに実施した取組) ・一部埋立処分だった廃プラスチック類を埋立処分にならぬよう、最終処分 業者の変更により、再資源化されるようになった。						
②計画		【目標】						
		産業廃棄物の種類	廃酸	汚泥	廃油	廃アル カリ	ガラスコ ンクリ陶 磁器	廃プラ
		全 処 理 委 託 量	335 t	517 t	39 t	58 t	53 t	172 t
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	335 t	517 t	39 t	58 t	40 t	100 t
		再生利用業者への 処 理 委 託 量					13 t	72 t
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量						
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量						
		産業廃棄物の種類	金属くず	木くず	水銀使用 製品	がれき類		
		全 処 理 委 託 量	9 t	75 t	0.4 t	2 t		
		優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	4 t	75 t	0.4 t	2 t		

(第 6 面)

		再生利用業者への 処 理 委 託 量	5t				
		認定熱回収業者への 処 理 委 託 量					
		認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量					
		(今後実施する予定の取組) ・生産工程の見直し改善等により製品率を向上させることによって発生 原単位の削減に努める。 ※管理型混合廃棄物に関しては前年度にイレギュラー的に発生したもので、 本年度の発生はないので計画には盛り込まない。					
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。